

第一六回江戸名所めぐりと 第一九回武藏探見

(埼玉支部との合同企画)

日本の文化遺産が世界遺産に認定されることが多くなっています。そんな中、我が国の学校教育の特に歴史教育の中で、中高教育の中でも封印されていて、大人になりそだつたのかという歴史があります。それは、日本の五・七世紀までの朝鮮半島から帰化した人々の歴史。例えば、埼玉県日高市の高麗神社は正に渡来人の墓などがあり、何でという疑問が自然と沸いてくる。昔、日本は「倭国」と中国の唐から呼ばれていた時代、遣唐使が派遣されていて中國等の文化を吸収し、新たな国造りが始まっていた。中央集権的な国家が誕生し、日本の国内にも渡来人?、帰化人?が国造りの基礎を造り、国を治めていったのでは?。大化の革新により、日本国は六〇余国に分けられ、府中市に「武藏国」が置かれ、二十一郡を管轄する國府が設置され、國司が中央から派遣されていたことが資料で明らかになっています。平成二一年に「武藏國府跡」として国の史跡に指定されています。このことをもあり、今回、府中市界隈の史跡を探見し、我々のルートを確かめてみようと思います。

日 時 令和元年一〇月一三日(日)

九時半より
南都線西府駅改札口前
熊野神社古墳→分倍河原駅→
一五時頃解散

案 内 費
四五〇円
府中市観光ボランティアの会を
予定

連絡先
埼玉支部・吉田敏
○五九一六五〇六、(〇九〇一)

参加希望者には別途詳細案内をいたし
ます。
事務局 岩城

東京支部

東京支部・岩城龍夫(〇九〇一四)
四五二一〇〇五三)

第一回平成卒の同窓生の集い、 BBQパーティー!(予告)



第一回平成卒同窓生イン・ 若洲公園BBQパーティーを実施

平成卒の同窓生の皆さん! 東京支部では、これまでの同窓会活動の脱却を図るため、新企画として、平成卒の同窓生を対象とした、第二回「平成卒の同窓生の集い、BBQパーティー!」を左記のとおり開催いたします。東京の江東区にあります。お手頃な野外レクリエーションゾーン、それが「江東区若洲公園」。キャンプ場、サイクリング広場、多目的広場、遊歩道、海釣り施設と、お子様、友人等と思いっきりエンジョイできる施設等が満載!、景色も最高!です。

懇親等を兼ねバーベキュー、風船割り、輪投げ大会を予定しています。都会とは別次元の東京の海辺でお会いしましょう! 関東地区的若手同窓生をお誘い合わせの上、是非、ご参加下さい。詳細は別途、案内ハガキを送付いたします。

日 時 令和元年一一月九日(土)十一時
場 所 江東区若洲海浜公園
電 話 03-3522-3225

平成三十年度東京支部 会費・寄付金納入状況

平成三十年度における東京支部会費、寄付金の納入状況は左記のとおりです。心から御礼申し上げます。当支部の活動も会員の皆様のご支援により成り立ております。役員一同感謝申し上げます。本年度も引き続きご支援、ご協力よろしくお願いいたします。

(敬称略)
30年六月・匿名、小川悟、下村絵子、
山本利久、杉野彰一、大久保知也

31年一月・西村勉、矢野紀子、立川小談志、
青木留美子、春井勲、堀田幸裕、
高井和伸、下村絵子、小椋康宏、
杉野彰一、高橋俊泰、尾崎秀夫、
大久保知也

二月・淀野敏男、杉野彰一、岩田洋士、
杉浦福夫、牛山功、小川千尋、
矢野紀子、金沢修、田中正博

七月・新井富美子、春井勲、堀田幸裕

一二月・

30年二月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

31年二月・

30年三月・

31年四月・

30年五月・

31年六月・

30年七月・

31年八月・

30年九月・

31年十月・

30年十一月・

31年十二月・

30年一月・

会員たより 東京

平松画伯との出会い

杉並区 小栗ひとみ

平松画伯作品を始めて鑑賞したのは今から八年前です。元箱根の芦の湖畔に建つ成川美術館にて行っていた『平松礼二展』でした。同美術館は窓からの芦ノ湖と富士山の景色が素晴らしいことでも有名です。

箱根のガイドブックやパンフレットに掲載されることも多いのでその光景を思ひ浮かべる人も多いかと思います。

正直なところ、それまでに同画伯の作

品を拝見したことがなく、ただ温泉に浸かりたくて箱根に出かけましたので何が行われているかは知りませんでした。そ

の時の箱根は快晴続きでしたし、芦ノ湖と富士山の景色がパンフレットと同じかどうかを早く確認したくて開館時間前に到着し、玄関までの長い上り坂をワクワ

クしながら急ぎ足で進みました。「景

色を見るだけだからこの料金は高い

なあ」なんで思いながら入館して、ミュージアムショップを右手に見て進み、前方

に見えてきた大展望ラウンジへと小走りになりました。

と、その時、両側にある展示室からいろいろな色が私の目に飛び込んできました。それは時間にしてほんの一瞬のことでした。気持ちは前方を見ているのに真横九十度の僅かな視野に入ってきた色に引き留められました。藍・紅・朱・琥珀・松葉色などの鮮やかな色に引き付けられて、前方の大展望ラウンジではなく展示室に入った事を今ではっきりと覚えています。

大きな屏風絵の前でふと『これらをフランス、特にモネのジヴェルニーで見たらどんな印象を受けるだろうか』と思いました。それ以来『いつかジヴェルニーに行きたい』と切望しておりますが今だ

に実現はしておりません「あああ」。

今から三十年以上前にパリのオランジエリー美術館の『睡蓮の間I』『睡蓮の間II』の東西南北全ての壁面にある

睡蓮の絵の合計八点の大装飾画が見

くて出かけたことがあります。

絵を見ているうちに、その時の状況が頭の中に浮かんで来て、頭の中は展

示会を二つ見ているようでした。次第に頭の中の酸素は欠乏し疲労感を感じ始めたので休憩をしようと腕時計を見

たら昼食予定の時間はとうに過ぎ、久しぶりに充実した時間を過ごしたものでした。最後に画伯のプロフィールを見てびっくり、「ええー! 同窓生なの? ?」。

その夏に行われた東京支部の総会でその時の興奮を喋っていました、「今度、平山先生の作品展がジヴェルニーに実施しました。

近代日本経済の父、渋沢栄一は天保一年(一八四〇)武藏国榛沢(はんざわ)郡血洗島(ちあらいじま)村(現在の埼玉県深谷市血洗島)に生誕。渋沢家は農業の他に藍玉の製造や養蚕も営む苗字帶刀の豪農でした。父親からは律儀さ、人の思いやりを、母親からは慈悲のころを学び、七歳頃からいとこの尾高惇忠に論語をはじめとした学問を学ぶとともに尊王攘夷思想の影響を受けました。栄

一が十七歳の時、村を治める岡部藩から五百両の御用金の拠出を申し付けられるが、その強引な役人の態度から、身分制度への疑問をいただき、明治政府辞して後の官尊民卑の打破を目指すことにつながったとも言われている。栄一二十二の時、いとこの渋沢喜作とともに学問や剣術の修練のため江戸へ行く事を父に許可をもらい、海保塾や千葉道場で学び、天下の志士と交わり尊王攘夷思想に感化され、高崎城の乗つとり、横浜へ攻め入り攘夷を果たすという過激な企画を立てたが、京都の情勢を見て帰郷した。いとこの尾高長七郎の強い反対に合い中止され、栄一、喜作の二人は追手から逃げる為京都へ逃れた。京都では江戸遊学の時、面識を得た一橋家の重臣平岡四郎を頼り、國元の長七郎からの手紙では二人は

埼玉支部

第二十回 テーマ発表 「渋沢栄一の生地を訪ねて」

上尾市 吉田 敏

埼玉支部有志六名にて、三月十七日(晴)

れ)に実施しました。

近代理事の父、渋沢栄一は天保

一年(一八四〇)武藏国榛沢(はんざわ)

郡血洗島(ちあらいじま)村(現在の埼

玉県深谷市血洗島)に生誕。渋沢家は農

業の他に藍玉の製造や養蚕も営む苗字帶

刀の豪農でした。父親からは律儀さ、人

への思いやりを、母親からは慈悲のこ

ころを学び、七歳頃からいとこの尾高惇忠

に論語をはじめとした学問を学ぶとともに

尊王攘夷思想の影響を受けました。栄

一が十七歳の時、村を治める岡部藩から

五百両の御用金の拠出を申し付けられる

が、その強引な役人の態度から、身分制

度への疑問をいただき、明治政府辞して後

の官尊民卑の打破を目指すことにつな

がったとも言われている。栄一二十二の

時、いとこの渋沢喜作とともに学問や剣

術の修練のため江戸へ行く事を父に許可

をもらい、海保塾や千葉道場で学び、天

下の志士と交わり尊王攘夷思想に感化さ

れ、高崎城の乗つとり、横浜へ攻め入り

攘夷を果たすという過激な企画を立てた

が、京都の情勢を見て帰郷した。いとこ

の尾高長七郎の強い反対に合い中止され、

栄一、喜作の二人は追手から逃げる為

京都へ逃れた。京都では江戸遊学の時、

面識を得た一橋家の重臣平岡四郎を頼

り、國元の長七郎からの手紙では二人は

役人から手配されているとの事の為も

あり士官させてもらい奉公に励み、一

八六年慶喜が将軍職に就いた為、栄

一は図らずも幕臣となり、この年開催

されるパリ万博に、将軍の名代として

慶喜の弟徳川昭武が渡航することとな

り、栄一はその隨行者に選ばれ渡欧す

ることとなる。ヨーロッパで進んだ思

想・文化・社会を体験したことは、そ

の後の人生に大きな影響を与えた。明

治元年(一八六八)帰国後、静岡藩で

謹慎する慶喜に挨拶、報告後、一時静岡藩に仕え、明治二年大隈重信の強い

説得もあり政府に仕えた。民部省租税

正(後に大蔵省へ)に任じられ他、現

在の社会まで通じる諸制度の設立に携

わった。明治六年予算をめぐって大久

保利通と対立し、官を辞した栄一は、

第一国立銀行を設立した。その後、ヨーロッパで学んだ知識を活かし、約五百

社の企業の設立に関与した。栄一の事

業に対する考え方は、いたずらに私利

私益に走るのではなく公利公益も考え、

社会全体を豊かにするというもので、

第一国立銀行を設立した。その後、ヨーロッパで学んだ知識を活かし、約五百

社の企業の設立に関与した

2019年6月1日

定に尽力するなど、関わった社会公共事業は六百にも及ぶといわれています。こうした栄一の生き方には、論語の教える他、誰にでも分け隔てなく優しく親切だつた母の影響を垣間見ることができます。これは明治政府が歐米列強にまけないために日比谷周辺を近代的建築による官庁街とし、建物群は西洋風の煉瓦造りとするため、栄一に大量生産が可能な機械式煉瓦工場の設立を要請しました。明治二十年に栄一他四名で「会社設立願」を出し、許可され二十一年ドイツ人のオーフマンの協力を得て同年九月一号窯の火入れが行われた。二十二年には二号、三号窯完成し、操業を拡大した。最初の発注は煉瓦二十二万本でした。運送方法は近くの小山川→利根川→江戸川→墨田川→東京。明治二十八年には高崎線深谷駅迄四キロの日本発の専用線を敷設した。最盛期には六基の窯が稼働していた工場も、時代の波に押され、平成十八年には約百二十年の歴史に幕がおろされた。現在は国の重要文化財になっています。

深谷市には大正時代に建てられた洋風の建築物が二棟あります。一棟は栄一の喜寿（大正五年）を記念して建築された「誠之堂」、もう一棟は当時第一銀行頭取であった佐々木雄之助の古希（大正十五年）を記念して建築された「清風亭」、いずれも当時の第一銀行の行員たちの出資によるものです。この二棟は世田谷区瀬田にあつた第一銀行の保養・スポーツ施設「清和園」の敷地内に建てられていたものを移築復元したものである。「誠之堂」は国指定重要文化財、「清

風亭」は県指定有形文化財となっています。前者は「西洋風の田舎家」、後者は「南欧田園趣味」の建築物です。市では深谷市には、煉瓦製造施設の跡地があります。これは明治政府が欧米列強にまけないために日比谷周辺を近代的建築による官庁街とし、建物群は西洋風の煉瓦造りとするため、栄一に大量生産が可能な機械式煉瓦工場の設立を要請しました。明治二十年に栄一他四名で「会社設立

願」を出し、許可され二十一年ドイツ人のオーフマンの協力を得て同年九月一号窯の火入れが行われた。二十二年には二号、三号窯完成し、操業を拡大した。最初の発注は煉瓦二十二万本でした。運送方法は近くの小山川→利根川→江戸川→墨田川→東京。明治二十八年には高崎線深谷駅迄四キロの日本発の専用線を敷設した。最盛期には六基の窯が稼働していた工場も、時代の波に押され、平成十八年には約百二十年の歴史に幕がおろされた。現在は国の重要文化財になっています。

後あつた國の中でも大国に位置した。又、五畿七道の地域区分では、最初東山道に属していましたが、七七一年に東海道へ所属替えとなつた。

③熊野神社古墳（上円下方墳）

全国に例が少ない珍しい古墳です。（最初の発見は奈良県）築造は七世紀中（末）です。南武藏最大級の石室を持つことも分かり、埋葬者はこの地方の実力者で、中央とも繋がりがあり、国府設置（七世紀末～八世紀初）に何らかの影響を与えたと思われる。

朝の集合から解散まで、一時間に一本のコミュニティバスと徒歩を交えての六時間三十分の散策でした。昼食はもちろん深谷名物「煮ぼうとう」をいただきました。資料（資料館資料、説明書）

（45年文卒）

第十九回 武藏探見

（東京支部合同企画）

「武藏国府跡探索」

（府中市内）
(十月十三日)

①ムサシの表記について
国名・郡名・郷名は漢字二文字で好字を付ける様に、朝廷より指示がでたが、最初に武藏の名が出てくるのは日本書紀六八四年です。それ以前はどのように表記されていたのか？

「充射志国荏原評」（川崎市影向寺跡出土瓦）。飛鳥淨御原宮跡、藤原宮跡の木簡に「充射志国」とある。おそらく「ムシャン・ムジヤン・ムヤシ」と言われていたのかな。

②武藏国とは

現在の東京都と埼玉県、そして神奈川県川崎市と横浜市の大部分を占め二十ーの郡を管轄した。七世紀中八世紀中に確立された律令制下の当時六十前



3月17日 清風亭にて

【埼玉支部】

平成30年度支部会費納入者名

（2019年3月31日現在）

問宮信夫（26法） 山内喜充（26法）

田村哲男（28法） 関口忠彦（30法）

谷中武比古（32法） 飯土井輝夫（34法）

鶴田泰男（36経） 小笠原良治（37経）

中山 弘（38法） 山口 昇（40法）

稻垣公子（41女短） 花井洋資（42法）

森本賢二（42法） 浜田重遠（43當）

中川善弘（44経） 吉田 敏（45文）

斧 啓（46法） 加藤孝司（46法）

小幡達夫（47法） 夏目益良（47経）

林 三郎（47経） 稲橋三春（48文）

三宅一馬（49経） 小川洋二（50経）

真野仁志（53経） 吉田一弘（56文）

野村隆宏（56法） 亀ヶ谷澄子（H5法）

中村八郎（H7経） 山内健治（H9法）

氏名・住所記載なし 2件

訃報

当支部初代支部長で顧問の吉川績氏（24年経卒）が昨年十一月二十四日、亡くなられました（享年九十五歳）。

吉川氏は埼玉支部長を務められたあと、顧問として、支部発展のため多大な功績を残されました。吉川氏の同窓会活動への尽力に感謝すると共に、一同心よりご冥福をお祈り申し上げます。

千葉支部(ちば古哲会)

■第11回 県内歴史探訪

成田山と宗吾靈堂を訪ねて

3月30日(土)、前日まで危ぶまれて
た天気も持ちこたえ、直行の2人を

はかかるところ、桜の開花にはちょっと早く、気温も低めの曇天だつたためか、一部老舗有名店を除き、さほど大した賑わいではなく、気を揉んでいた御護摩祈祷の時間には余裕をもつて到着。

除き 参加者15名がJT「船橋駅」に集合（総勢21名＝千葉支部12人・他支部9人）。早速、京成電鉄に乗り換え、最初の目的地「宗吾靈堂」へ。

山門手前にいきなり立派な佐倉宗吾父子のお墓があり、合掌礼拝。そして山門を潜り本堂へ。本堂裏側の「宗吾御一代記館」では、宗吾の生涯を等身

大の人形で再現した13場面をガイドの説明付きで観覧。境内にはこのほか宗吾顕彰碑や甚兵衛慰靈堂などもあるもの、滞在時間が限られていたため、やむなく次の目的地へ出発することとしました。



(宗五靈堂仁王門前にて)

貴君の字は読めないの記
船橋市江坂紀元

最後に、成田山は11年目の再訪となりますが、今回も長福寺の管浪住職（当支部理事）の計らいで実現できたものです。ここに記して感謝申し上げます。

(伊藤明良・村尾竹一)

貴君の字は読めないの記

昭和三十一年法学科卒業、凸版印刷
二年後退職。寺二社の経営

ながら現在八五歳。

近頃、齢の故か愛大生時代を夢に見る。同年の松井錦君故との思い出もその一つである。小岩井淨教授の政治学原論の学科試験において、私の出題予想がずばり適中、一気に書き上げ得々

16回目 辺りは「勝機前」の便りで話題を手放せないが、でもそれも楽しむ。そして、この四月に「毛筆教室」へ入門。何時か『君の文字は読み易いね』プラス『上手いね』を夢見て。

らであろう。読める字を、読み手第一、お客様第一、マーケットインの理念や処世の心得を見事に教示されたのである。

い眠差しで破顔一笑。どう応答したかは覚えていないが、玄関先で顔を見合わせ「参った」。ぐうの音もなし。しかし、何故か気分は爽やか、見上げた太陽が眩しかった。先生の堂々とした大人の風貌⁽³⁾と温い気持ちに触れ、感動・得心したか

として答案論文を提出。ところが結果は「良」。一方、私がヤマを伝え、二人して草稿を練り上げた松井君は「優」。彼は結果を知ると、それは何等かの手違い、先生に問うべしと決る私の背中を押してくれ、一緒に法経学部長室を訪ねた。先生曰く「君の字は自己流の略字にして乱雑、中途で判読を止めました。読めない答案は本来は落第、然し勉学した形跡は少々窺えるので落第も気の毒、なんとか及第の良にしておきましたよ……」と、温か

(2) 成績の配点、優(100→80点)、良(79→70点)、可(69→60点)

(31年法卒)
徳させる容姿

●連載● 東葛ヒストリア(7)

嘉納治五郎の実像

我孫子市 戸田七支

二〇二〇年の東京オリンピックを間近にひかえ、嘉納治五郎についての関心が高まっている。大河ドラマ「韋駄天」が放映されているが、本来ならば嘉納治五郎を主人公にすべきであった。それにしても明治、大正、昭和と激動期を第一線で生き抜いた嘉納に対する評価が充分とは言えない。柔道家、教育者、思想家として各方面に多大な影響を与えた功績は極めて大きなものがある。

この嘉納が我孫子を終の住処として過していたことはあまり知られていない。今我孫子では民間が主体となって嘉納治五郎の銅像を建立する運動が繰り広げられている。設置場所は、嘉納の別荘地跡。講道館、筑波大学、灘校、御影小学校に次いで5体目の銅像である。

嘉納治五郎の生い立ちを辿つて見よう。万延元年（一八六〇年）兵庫県御影村に嘉納次郎作、定の三男として生まれる。父次郎作は幕府の廻船掛を務めていた。本家筋は灘の菊正宗、白鶴の醸造元である。母定は治五郎一〇歳の時亡くなるが、理想的な幼児教育を施した。まとごと遊びに「先生ゴッコ」をしていたくらいいである。嘉納の土台がこの時期に造られたかもしれない。

明治六年一四歳、育英義塾に入り英語、独語他を学ぶ。明治八年開成学校へ入学、同一〇年開成学校が東京大学と改編された。この年、嘉納は身体の増強を目指して天神真楊流の門下生となり、柔術を学ぶ。研究熱心な性格は他の流派の長所を取り入れ、短所を削除し、新しい「柔道」を構築した。明治一五年一三歳、台東区稻荷町永昌寺に講道館の道場を設立し

封建的な柔術から近代的な柔道へ脱皮した成果は直ちに現れて、明治一八年警視庁主催の全国武道大会に於いて圧倒的な勝利を収めた。それ以降講道館柔道の隆盛は言うまでもない。嘉納二六歳であつた。教育の分野ではこの年、学習院の教授を皮切りに文部參事官、第五高等学校、第一高等学校、高等師範学校の校長を務める。しかしながらこれらの職務は管理教育者の長としてのものであり、嘉納の目指していたものは別の處にあつたのではないかと思うのである。（つづく）

平成30年度

【支部年会費】納入者一覧

支部年会費を納入下さった方は左掲のとおりです。ご協力に対し、心より厚く御礼申し上げます。

木村祐司(30)、江坂紀元(31)、篠田幸雄(33)

林瑛(34)、安井鉄朗(34)、戸田七支(35)

堀昌彦(36)、辻本忠(36)、中山弘(38)

小田洋一(38)、万木映子(38)、石田克己(40)

尾嶋秀夫(40)、河崎洋司(41)、伊藤明良(42)

村尾竹一(44)、金森定夫(44)、湯山義則(44)

小林昌和(44)、中神六郎(44)、伊藤福子(44)

篠田要衛(44)、長野道雄(45)、春井勲(46)

石原豊(46)、虫鹿敏克(46)、林信行(46)

窪田雄一(47)、李相龍(47)、西山康夫(48)

竹田貴文(48)、斎本正嘉(50)、飯塚理夫(51)

篠田要衛(44)、長野道雄(45)、春井勲(46)

石原豊(46)、虫鹿敏克(46)、林信行(46)

窪田雄一(47)、李相龍(47)、西山康夫(48)

竹田貴文(48)、斎本正嘉(50)、飯塚理夫(51)

（以上35名／卒年順・敬称略）

訃報

神奈川支部恒例の「横浜ことはじめ」は、10月20日（土）に開催され、南、小川千尋の大先輩方、遠方からは東京、埼玉、千葉支部の方々の参加を得、総勢32名となりました。又今回も女性4人、子ども2人（6歳と9歳）の御嬢さんの参加を得て、和みを与えてもらいました。

小机城は1439年頃（室町時代）に関東管領上杉氏により築かれたと考えられます。長尾景仲の跡取り問

小机城は1439年頃（室町時代）に関東管領上杉氏により築かれたとえられました。又今回も女性4人、子ども2人（6歳と9歳）の御嬢さんの参加を得て、和みを与えてもらいました。

小机城は1439年頃（室町時代）に関東管領上杉氏により築かれたとえられました。又今回も女性4人、子ども2人（6歳と9歳）の御嬢さんの参加を得て、和みを与えてもらいました。

第15回「横浜ことはじめ」

横浜の古城・小机城探訪



横浜ことはじめを巡る探訪 #15 小机城址散策 2018年10月20日

神奈川支部

題が、関東一円に拡がりました。景春側についた小机衆と太田道灌の戦いとなります。鶴見川を挟んで両軍の激戦でしたが翌年城は落ちてしまはらくは廃城。

16世紀となり小田原北条氏の配下に入ると南武蔵の拠点として、江戸を結ぶ軍事上経済上の重要拠点となりました。北条家の笠原越前守信為が城代となります。小田原北条氏の滅亡により小机城も廃城となりました。笠原家は雲松院を菩提寺として、現在もまつられています。

城郷小机地区センターには新ジオラマが作られ当時の面影を知ることができます。探訪終了後、新横浜グレースホテルで、懇親会を行いました。

（幹事 飯田正明）

○実施日…令和元年10月19日（土）

○場所…大山道二子・溝口宿

〔江戸赤坂御門を起点とし大山へ〕

江戸時代後期には大山詣りの人、モノが増え宿場がにぎわいました。

豪商大貫家、岡本一平×岡本家の子×岡本太郎との関連にも注目します。

横浜をガイドする会・幹事飯田正明連絡先(090-2412-4397)

大倉山 觀 梅 會

本年も、横浜市港北区役所主催の『梅祭り』に併せて、恒例の大倉山觀梅会を開催いたしました。毎年、神奈川支部会員はもとより、近隣の各支部からも参加をいただいてい人の人気行事ですが、今年度は東京支部開催の催しと日程がダブり、参加者が多少、少なめでしたが、千葉、埼玉、東京支部の皆様も含めて総勢二十三名の方々にご参加をいただきました。

寒暖の差が激しく天候を心配しておきましたが、お陰様で天候に恵まれ安心でした。

最寄り駅より梅園まではやや急な上り坂になりますので、本年もタクシーを借り上げて片道サービスを実施いたしました。

全体的に古木が多く、枝ぶりはさまざまですが、三十二種類、二百本の梅が一月下旬から三月にかけて、その華やかさを競う中、会場は梅見だけでなく、屋台の品を買い求める人や野点を楽しめました。

懇親会は、昼食を兼ねて大倉山駅近くの『魚民』に場所を移し、雰囲気は一段と高まり、参加者全員からお話を聞いていただき、有意義な情報交換の場となり、交流をより一層深める事が出来た事と喜んでおります。



関東地区4支部連合会神奈川支部東海会、於 大倉山公園 2019年2月16日

大学時代は、二年生の時から団体戦ですが全日本学生大会に毎年出場していました。

社会人になってからは仕事の関係で転勤が多く、なかなか腰を据えての稽古が出来ませんでしたが、赴任地の先々で地元の方々と稽古を交え、また様々な方との交流を得る事ができ（宮本武蔵の教えで諸職の道を知事）おのれの職能だけでなく、広く多くの職能の道をすること）現在も交流を続けており、いまだ色々とご尽力ご助言を頂いております。

又、青壯年当時は動くことが自然で、家の中にいる事が少なくつい外出する事が多く遊び廻ったものでしたが、年齢を重ねると共に億劫になり身体を動かすのが少なくなって来ており自分で努めて動くよう意識しないと一日中じっとしたまま、テレビ、パソコン、読書等に時間を割くことが多くなり運動不足になりました。現在は膝の具合が今一ですりがちです。今は膝の具合が今一です。が軽く竹刀で素振り等を始めました。

趣味として剣道に夢中になつた時期があり、時間はあつと言ふ間に過ぎ去り、その後の気持ちは晴々とした気分になりました事をもう一度取り戻したいとの気持ちが働いているところです。

しかし、この歳になりますとついいつまで剣道が続けられるか……」

「いつまで剣道が続けられるか……」と考えることが多くなりましたが、膝の具合と睨めっこで無理しない稽古を中心悔いの残らないよう身体が動くうちに続けたいと思います。

（44年経営卒）

隨 想

町田市 石井 克彦

会員だより*神奈川*

幹事 石井克彦

寄付金

寺澤秀浩(29)、中島寛司(33)、岩間 豊(33)	辻井次郎(25)、奥田廣實(27)、杉本陽一(28)
寺澤秀浩(29)、南 昌彦(28)、鈴木孝治(29)	山崎宏彦(28)、荒川満夫(32)、早川國芳(32)
岩間 豊(33)、中島寛司(33)、栗山登之(34)	古澤公章(36)、山本康三(36)
鈴河原平八(34)、横田浩司(34)、杉山 務(34)	古澤公章(36)、田村佐知子(37)、飯田正明(38)
夏目勝美(35)、福岡 要(36)、山本康三(36)	石川光芳(38)、梅村 修(38)、成瀬康子(39)
岩間 豊(33)、中島寛司(33)、栗山登之(34)	谷由紀子(40)、工藤恵美子(40)、平松礼二(40)
鈴木 宏(43)、浅井敏之(43)、伊藤登美夫(44)	金原俊通(41)、松本優幸(41)、豊島輝慶(41)
高間益雄(44)、石井克彦(44)、鈴木紀吉(45)	青山輝男(42)、阿藤 誠(42)、中島久男(42)
竹下敦子(45)、谷口 優(47)、下 貞子(47)	田邊元就(42)、柴垣敏秋(43)、作田賢治(43)
島崎のり子(48)、谷口良子(49)、島岡憲二(49)	鈴木 宏(43)、浅井敏之(43)、伊藤登美夫(44)
荒井隆史(50)、山本惠子(50)、一之瀬和彦(52)	高間益雄(44)、石井克彦(44)、鈴木紀吉(45)
小林誠二(53)、長谷川澄子(53)、鳥越 剛(58)	竹下敦子(45)、谷口 優(47)、下 貞子(47)
鬼頭秀彰(63)、平田浩一(H 3)、	島崎のり子(48)、谷口良子(49)、島岡憲二(49)
相崎高弘(H 14)	荒井隆史(50)、山本惠子(50)、一之瀬和彦(52)

平成三十年度支部会費・ 寄付金納入者名簿

（卒年順57名）平成三十一年三月三十一日現在

支部会費

辻井次郎(25)、奥田廣實(27)、杉本陽一(28)	山崎宏彦(28)、荒川満夫(32)、早川國芳(32)
寺澤秀浩(29)、南 昌彦(28)、鈴木孝治(29)	古澤公章(36)、山本康三(36)
岩間 豊(33)、中島寛司(33)、栗山登之(34)	石川光芳(38)、梅村 修(38)、成瀬康子(39)
鈴河原平八(34)、横田浩司(34)、杉山 勤(34)	谷由紀子(40)、工藤恵美子(40)、平松礼二(40)
夏目勝美(35)、福岡 要(36)、山本康三(36)	金原俊通(41)、松本優幸(41)、豊島輝慶(41)
古澤公章(36)、田村佐知子(37)、飯田正明(38)	青山輝男(42)、阿藤 誠(42)、中島久男(42)
石川光芳(38)、梅村 修(38)、成瀬康子(39)	田邊元就(42)、柴垣敏秋(43)、作田賢治(43)
谷由紀子(40)、工藤恵美子(40)、平松礼二(40)	鈴木 宏(43)、浅井敏之(43)、伊藤登美夫(44)
金原俊通(41)、松本優幸(41)、豊島輝慶(41)	高間益雄(44)、石井克彦(44)、鈴木紀吉(45)
青山輝男(42)、阿藤 誠(42)、中島久男(42)	竹下敦子(45)、谷口 優(47)、下 貞子(47)
田邊元就(42)、柴垣敏秋(43)、作田賢治(43)	島崎のり子(48)、谷口良子(49)、島岡憲二(49)
鈴木 宏(43)、浅井敏之(43)、伊藤登美夫(44)	荒井隆史(50)、山本惠子(50)、一之瀬和彦(52)
高間益雄(44)、石井克彦(44)、鈴木紀吉(45)	小林誠二(53)、長谷川澄子(53)、鳥越 剛(58)
竹下敦子(45)、谷口 優(47)、下 貞子(47)	鬼頭秀彰(63)、平田浩一(H 3)、
島崎のり子(48)、谷口良子(49)、島岡憲二(49)	相崎高弘(H 14)

私が初めて竹刀を握ったのは父親の影響もあり小学校低学年の頃で、途中剣道を離れ別のスポーツにはまつた時

期もありましたが、本格的に取組出したのは高校入学時よりになります。

（44年経営卒）

ご協力有難うございました。

支部会費は同窓会支部活動の源泉です。今後ともより一層のご理解とご協力を願いいたします。

支部長 伊藤登美夫

■講演会＆立食パーティ

「四支部合同新年会」を開催

世界が認めた日本美学



関東四支部では、一月十九日（土）、『霞山会館』に於いて恒例の特別講演会・合同新年会を開催しました。出席者は、富増副学長、藤田名誉教授、平松名誉博士、酒井理事、林監事、土井同窓会長、内山浜松支部長など来賓を含め五〇名でした。

第一部の特別講演会では、本学名誉博士である平松礼二画伯をお迎えして、「国際教養としての日本美学」と題し講演をしていただきました。

平松画伯は、作秋、パリ郊外の「モ

ネの庭園」の目と鼻の先にあるジヴェルニー印象派美術館で開催された「平松礼二展」の様子や、日本画・浮世絵がモネ、マネやゴッホなど印象派の画家たちに大きな影響を与えたことなどを映像や写真を使って分かりやすく話してくださいました。また、日本画の技法の習得や自然素材の顔料などについても触れていただきました。講演終了時には、出席者の皆様から大きな拍手をいただきました。

第二部の新年会は、主催者代表挨拶から始まり、来賓祝辞、乾杯のご発声へと続きました。その後、飲食を楽しみながら、参加者各位のスピーチ、お楽しみ抽選会、会員によるマジックが披露されるなか、歓談も大いにはずみ懇親を深めることができました。

結びに逍遙歌と学生歌を放歌高吟し、一本締めでお開きとなりました。

（神奈川支部長 伊藤登美夫）

「第一ブロック支部長会議」

桜はまだ蕾の新潟で開催

四月六日（土）、第一ブロック支部長会議が新潟市の「新潟東映ホテル」で開催されました。今回は、新潟支部の坂田支部長はじめ役員の方々に開催担当支部として大変お世話になりました。

会議に先立ち、坂田支部長の案内で新潟市郊外に所在する豪農の遺構「豪農の館・北方文化博物館」を希望者のみで見学。広い敷地に往時そのままに残る本邸等や庭園はすばらし

く、まさに「見る価値あります」。

会議には、各支部長・事務局長、同窓会本部から土井会長と各ブロック長の計二二名の方に出席していました。

まずはブロック長（村尾千葉支部長兼副会長）の開会挨拶に続き、坂田支部長による議事進行の下、①各支部の年間活動等状況報告、②各支部共通の課題・問題点、③同窓会本部および母校への要望等をテーマに質疑応答・意見交換が行われました。

このうち②はどうすれば新規会員や行事参加者を増やすことができるかをめぐり活発な議論が交わされました。

次に、「学長スピーチ」として、川井学長から、就職状況（公務員合格者倍増）、入試状況（応募者過去最高）ほかについてお話をお聞きすることができました。

「懇親会」は、坂田支部長の歓迎挨拶と乾杯で開始。土井会長ならびに各ブロック長からもご挨拶をいただき、支部相互間の情報交換・親睦交流を一層図ることができました。

最後は、中川埼玉支部長による三本締でお開きとなりました。

（埼玉支部長 中川善弘）

東亞同文書院記念基金授賞式

中島寛司氏が功労賞を受賞

去る三月六日、東亞同文書院記念基金授賞式が霞山会館で催され、

本年四月から、次のとおりの人事異動がありましたのでお知らせします。

所長：守能伸幸（前副所長）
なお、前所長の夏目益良氏もキャリア・アドバイザーとして引き継ぎ勤務さ

平松画伯原画のステンドグラス

三月四日、ゆりかもめ「新橋駅」のプラットホーム階西口側に設置された平松画伯の原画・監修になる大型ステンドグラスの除幕式がありました。

屏風型のステンドグラスには、デフォルメされた富士山と海・かもめが正面に、梅・桜と紅葉が両側面に鮮やかな色彩で表現されています。外国人も含め多くの乗降客の目を楽しませることでしょう。

（T）

大学東京霞が関オフィス情報

本年四月から、次のとおりの人事異

動がありましたのでお知らせします。

所長：守能伸幸（前副所長）
なお、前所長の夏目益良氏もキャ

ります。